



103
372

新刊詩書目錄 上下

國
書
藏

誹諧書籍目錄

上卷

誹諧書籍目録解題

本書は阿誰軒柳磨といふ人の元禄五壬申の

年に編纂せし誹諧書目と、俳書の出版所とし

て名高き井筒屋が元禄十五年に編みし自家

發賣の俳書直段附書目とき同輯したるもの

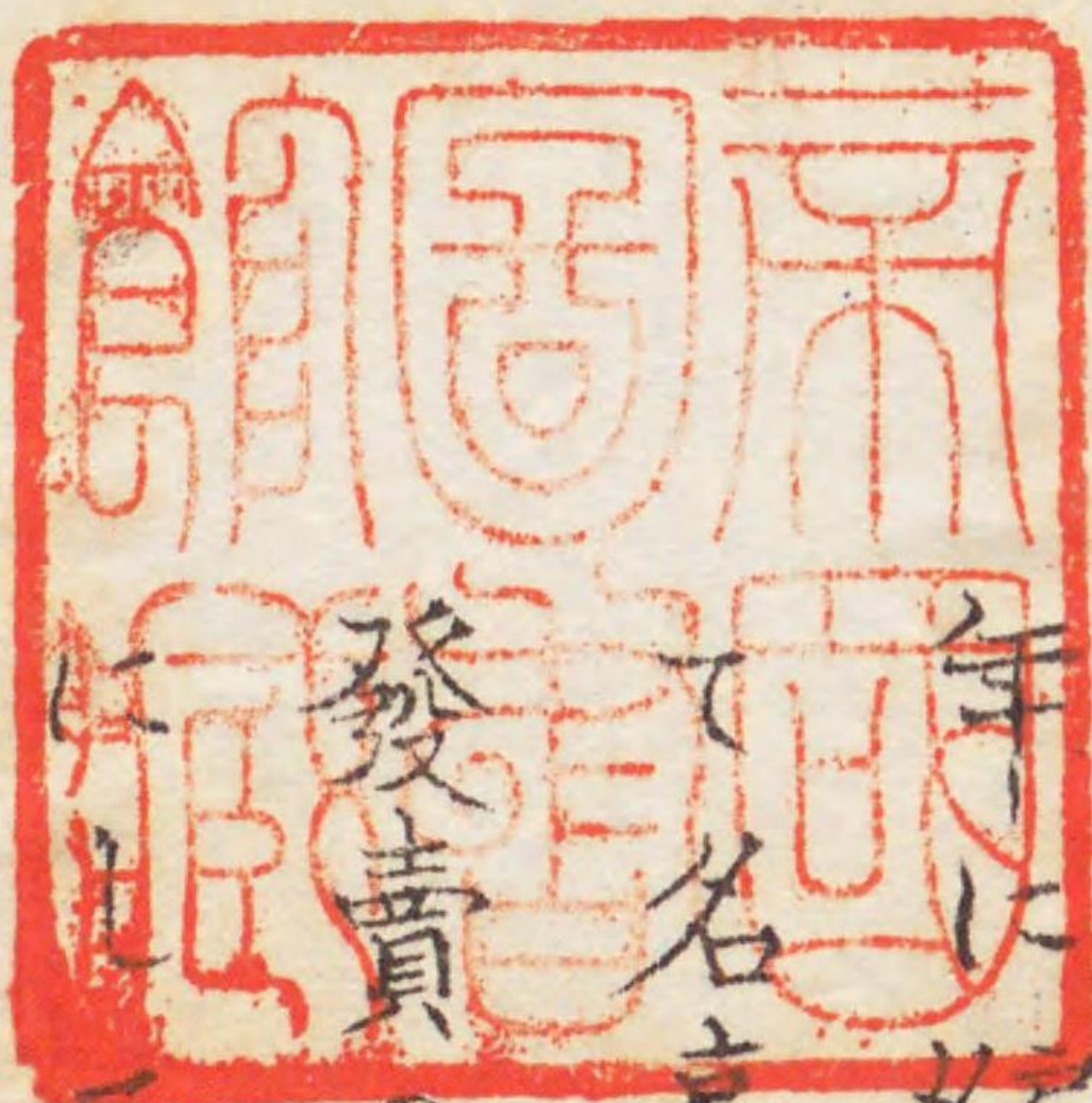
を、勿論上梓發布したるものなるべけれ

ど、寡聞にして未だ版本の現存せるものある

を聞かず。明治以降に公にせられし、大野洒竹

君の俳諧畧史に附せし年表、角田竹冷君の校

訂に成れる望東、麦人二氏の共著なる俳諧年



表等を見ても、未だ本書を参照せりとは見え
ず。但し後者の引用書目中には、寫本誹諧書籍
目録の名は見ゆれど、試に元禄五年の條を參
照するに、この書目に見えて年表中に掲げざ
る書名二十餘種（内二三種は他の年次の條に
記入せり）あるより見れば、その俳諧書籍目録
と稱するものは、本書には非るに似たり。

往日神田松山堂に於て、偶々本書の寫本を得
たる後、高野斑山君の注意によりて、内閣本な
る同書の寫本と對照するに、予の獲しものは

或は内閣本を轉寫せしものなるやを疑はし
むるものあり。さればこゝには内閣本を底本
として、予が藏書は僅かに參照に供へしのみ。
阿誰軒の書目は確に元禄五年に上梓せしもの
なるべく、同年に既に書籍拾遺を編みしこ
とを記して、元禄五年の夏、此目録に書もらし
たる書籍追加なりと附記せり。而して井筒屋
の書目は十五年版なれば、尠くも初版は別冊
なりけむを、後に同輯したるものなるべし。
阿誰軒の書目には、往々書物の内容を簡單に

記入せるところあり、俳諧史を調査するものには参考となること尠からず。井筒屋の書目の値段附は、廣益書籍目録ふどと對照して、俳書の價格を確むべき無二の根據なるべし。阿誰軒がなほ誹諧の文字を用いたるは、蕉風の人ならねばなるべく、書中の兩吟の小序より見れば、池西言水の門人なるべし。京の旅館にて序を草したりといひ、しかも京師阿誰軒と名乗れるは、京近き田舎に住みしにや。その傳未だ考へ得ず。

大正四年秋

文學博士 佐々政一

序

名と實此實とハ莊周リ偶言此内のまこと
五十余帖乃題号ハ武部リ艷顔此虚言を目
録乃分きく歎ふ誠顯る俳諧の書ハ犬築波
乃峯より流落く淀川ハ油糟の漲正も星己
來絶きぬ世々此集の目ふ及ひ耳にぬきし
古記あり新敷何リ正書あり邪書あり卷々
此多きあり紙き量へて十ふきくぬあり貴
とふく賤とぬく不佞専門ふありやと是を
書記しる笈の底ふりいる捨とり今剖闕

氏の需に應じく梓を録む且又古記と温ぬ
は此一乃助ともあらん此の時盧舎那
佛開眼の日お詣り京を歸りてと世に業乃
繁ふとくく南京乃旅館閑燈此下
柄短ふ依筆して自序ス

洛陽阿誰軒

龍集壬申三月廿七日

藤ノ柳磨

譚諧書籍目録上

京師 阿誰軒編集

大築波

冊一 俗名志那弥三郎範重山崎住一夜庵

宗鑑撰

後柏原院御宇永正土年甲戌初秋編集
今元禄五年迄百七十九年二成

洛都松茂 維舟法橋 重頼撰

大子集

寛永十年癸酉年述作

雒陽野々口氏 立圃撰

發句集

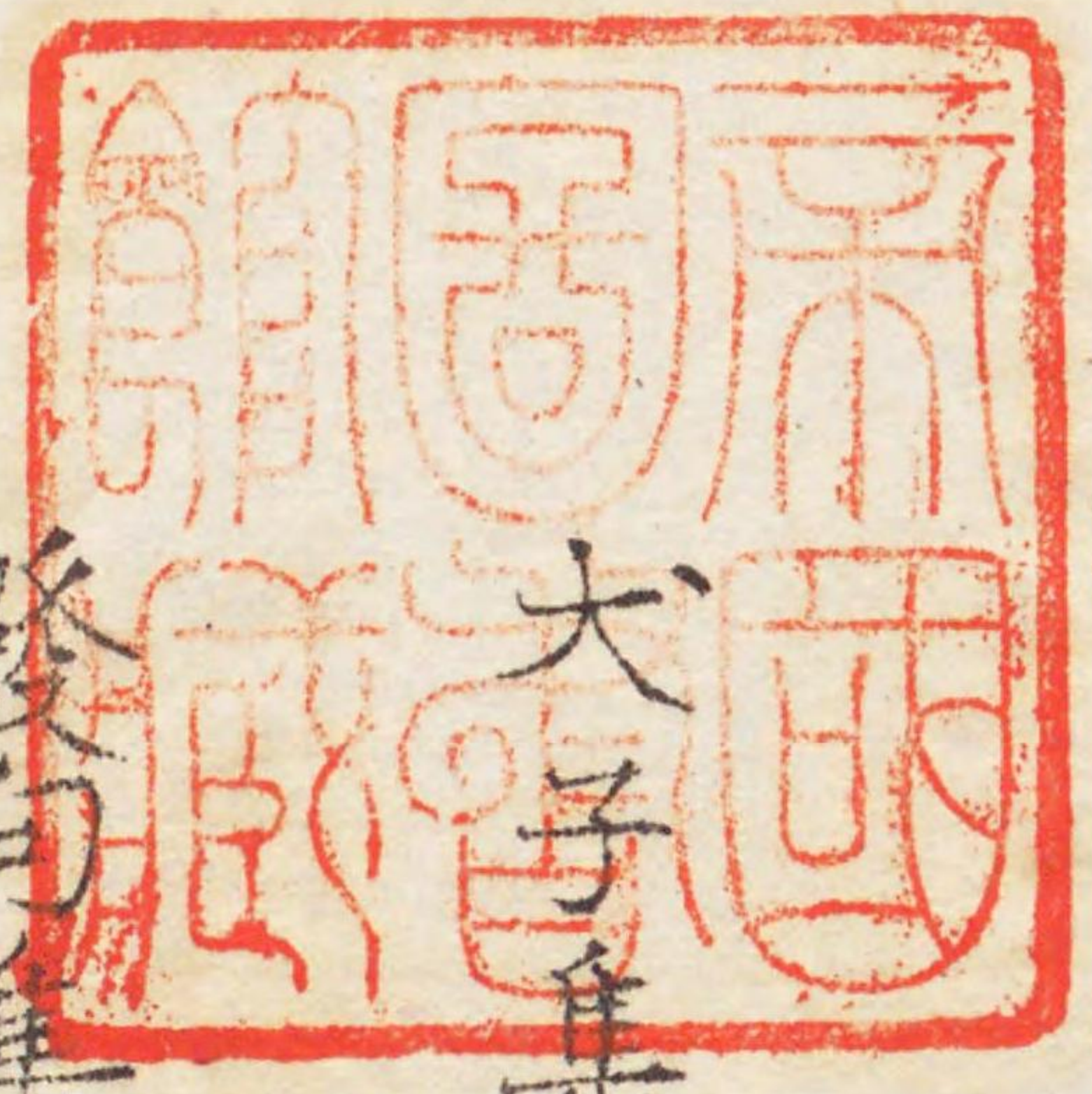
寛永十年十一月撰

京山本氏 西武撰

久留流

冊一

貞徳翁跋寛永十三年九月



追善九百韻 冊一

寬永十四年正月晦日

立圃作

鷹筑波 冊七

西武撰

貞德翁、跋寬永十五年九月廿五日全書

誹諧初學抄 冊一

德元作

寬永十八年己卯正月廿五日

京師安原氏法名真室

百韻自註 冊一

正章作

寬永十九年子二月下旬成

鼻火草 冊一

鳥丸殿光廣卿跋

立圃作

寬永廿年正月

淀川油糟 二冊之名也

道遙軒法名明心居士

貞德先生

寬永廿癸未比編集

底技白 冊二

幸和作

寬永廿一未春

氷室守 冊四

正式撰

正保三年二月郡山王有

鵜鷺千句 冊二

幸和作

正保三年十一月

毛吹草 冊五

重賴撰

正保二年二月

松江氏

山乃井

冊五

正保五年正月

拾穗軒北村氏

季吟撰

花月誹諧

冊二

慶安二年二月立南門人千句也

空礫

冊二

立圃作

望一千句

冊一

慶安二年九月

伊勢住

望一作

山田誹諧

冊二

慶安三年二月

作者

利清 孝晴 望一

步慈神

冊二

慶安三年九月九日

空門子作

野行集

冊二

慶安三年九月九日 貞徳翁跋

定環作

片言

冊五

慶安三年十月下浣

正章作

十寸鏡

冊二

慶安五年辰二月

久次作

誹諧千句

冊二

兼應二年八月

立圃作

菽卷

養應三年比

西武作

卷頭

貞德翁

紅梅千句

冊一

明曆元年五月

夢見草

冊五

明曆二年正月

休安書

秋田屋平左衛門

開板

馬鹿集

冊六

作者不分明

明曆二年正月

令德作

土塵集

冊六

明曆二歲二月上旬

世話燒

冊五

明曆二年五月

土佐田滿院

皆虛作

破詈魔

冊三

内一卷八姫路住

是誰作

誄諧合

冊六

明曆二年五月

判者季吟

元隣跋

いふと集

冊二

明曆二年七月

季吟作

玉海集

冊七

明曆二年八月廿日

正式序
貞室跋

明曆二年八月

口未了草

冊五

大菴野也跋

梅盛撰

久小比細布

冊四

安靜作

明曆二年十月中浣

明曆三年三月

物志草

冊五

蝶々子作

明曆三年霜月

人真似

冊二

明曆三年十月

鸚鵡集

冊十

明曆四年戊二月中浣

梅盛作

京堂部

冊六

明曆四年七月

中川氏

喜雲作

沙金袋

冊六

明曆四霜月上旬

一花堂切鹽序
永三跋

西武作

牛飼

冊五

万治九年戊九月

幽山亭散人

燕石作

拾玉集

冊四

万治元歲九月

元知作

尾張八百韻

冊一

同年十月

無能子

友次作

御筆

冊十

貞徳翁作

万治三曆亥ノ八月編作

夢想百韻

冊一

貞徳自註

八朔の夜小洲乃多年上はのち杉せぬ御
万治三年巳亥八月中旬

備前國末代仁意

鈍屑

冊七

嵐及作

万治二年九月

捨子集

冊四

梅盛作

万治二年十月

澤田氏

由雪作

和歌竹

冊五

万治二年十月

兩吟集

季吟暫醉
巻頭也

万治三年子正月七日

鋸屑

冊六

一雪作

万治三年四月

野田孫兵衛

梅盛作

俳仙戒六人

万治三年四月

九百韻

立圃作

万治三年六月上旬

木間抄

常信作

万治三稔子ノ八月五日

百人一句

冊二

谷民

重以作

慕榮集

冊四

常底作

萬治三年九月

海之立

冊五

武門作

萬治三年九月

源氏鬢鏡

冊二

素伯撰

萬治三年十二月

尾蠅集

冊一

服部定清作
立圃加筆

萬治四年丑三月

思出草

冊六

蝶々子作

寬文元年丑、丑月下旬

浮世長刀

冊五

伏見
道甘自序
見純跋

寬文元年七月

辨說集

冊一

一真書之

同元年

初志とゆひ

冊七

同元年九月中旬

池田
是誰自序
令信跋

同元年十月上院

身樂千句

冊二

寬文二年正月

元隣述

鹿驚集

冊五

同二曆三月

春院作

鄙諺集

冊八

同二年三月

荻野氏

安靜作

良保千句

冊一

同二年七月

子息筆

續境海草

冊五

同年七月

阿知子杯庵

顯成作

旅枕

冊三

寬文二年中秋

令慶作

花乃露

冊四

同年仲冬日

道甘撰

五条百句

冊一

同三年春

誹諧師乃評判

落穂集

冊七

同年五月

梅盛編

破枕集

冊五

同年五月中旬

良保撰

誹集良哉

冊三

正由作

寛文三年七月中旬

茶抄竹

冊四 内一札追加おくはとの
正章千句ノ訛言

一雪作

同年八月

早梅集

冊六

梅盛撰

同年十月

木玉集

冊六

同

同年今月

神子舞

冊一

田立作

寛文四年二月下旬

鼻火大全

粹柿軒作

寛文四年六月

誹諧名所付合

冊二

重俊作

同稔八月下旬

佐夜中山

冊七

維舟作

同年肯亦六日

天神法樂集

冊一

友貞作

寛文五年巳三月中旬

蘆花集

冊四

似船作

寛文五年三月

富尾氏

小町おとり 冊六

寛文七年八月中旬

立圃作

十會集 冊一

同年十月十五日

季吟撰

雪千句 冊二

同年霜月

大坂衆方々此点取

都草 冊三

同歲土月上旬

由健作

歌仙誄諧揃 冊一

同六年正月

季吟 宗因 維舟
玖也 元隣

洗濯物 冊六

同六年二月

一雪作 盤斎亭
西武跋

遠近集 冊七

同年春

西村
長愛子作

風俗集 冊三

同年五月

良保作

正交千句 冊二

同六年十月

作者
伊勢山田住

望一後千句 冊一

同七年正月

小支ま

冊五

百韻廿人点者東六条ノ板元

寛文七年七月

玉海集追加

冊七

正章作

同年九月

盤奔序

古今四季友

冊二

立静作

同九月

中川氏

京童跡追

冊六

喜雲作

同九月

續山乃井

冊七

季吟作

同年十月十五日

乃れ石

冊五

梅盛撰

同年十月廿日

戲謔草

冊五

良保撰

同十月

嗚呼立千句

札一

重軌撰

同霜月上旬

伊勢踊

札五

伊勢住
加友作

同十月中院

花火綱目

冊三

正由跋亦氏
景三作

寛文八年七月上旬

誹諧鳥合 冊一

寬文八年土月

正由加筆冊別注安都作

誹諧詞友 冊三

同十年三月

卜甫跋朝院種寬作

濱菰 俳諧去嫌乃謠

同十年五月

蘭氏 卜圃作

漆舟十萬句 冊五

同年未冬

西村可收 重親作

新百人一句 冊二

同十一年正月

元隣跋 重以作

吉野山獨案内 冊六

同二月

元隣作

落花集 冊五 内一札宗因十百韻

大坂住

以仙作

同二月下旬

藪香物 冊二

同年春

清水氏 春流作

赤紫 冊二

同年巳月

季吟点 南都住 道弘作

諸國獨吟集 冊二

同六月

元隣編註 季吟撰

新獨吟

冊二

重德編

難波草

冊四

不三作
藤田

寬文十一年六月中旬

乙卯抄

札五

宗養在判
昌休

同年七月廿五日

誹諧道連

札一

立靜作
小谷氏

同年十月

時世粒

冊六

維舟作
松江氏

同十三年子三月上旬

續大和頌礼

冊五

正辰作
國村

同年春

大海集

冊八

桑折序
宗臣

同四月廿五日

備後表

札一

山田無文獨吟

同年五月

てぐり船

冊七

顯成作

同年七月

千句

冊一

大坂立空以存
可政

備前胤及

寬文壬子孟夏

立園
令德
令富

誹諧演荻

冊一

定親兩吟
立甫

寬文十二七月上旬

晴小袖

冊四

一雪作

同年秋

塵塚

冊二

重德編

同年八月

續詞友集

冊五

種寬作

同年八月

音頭集

冊四

三保作

同年仲冬十日

山下水

冊五

梅盛作

同年年季冬

鶯笛

冊五

隨流作

寬文十三年丑二月廿五日

法乃花

冊三

沙門
松苔軒作

同年三月

字乃野

冊八

江戸館氏
意行子作

同年五月

誘心集

冊二

種藤
久寬作

同年七月

誚諧捨舟

冊四

田中
常矩作

松花集

冊四

蝶々子
一見作

宗因千句

冊二

同八月
寬文十冬季

埋木

冊一

季吟作

短綬集

冊二

同二寅三月中旬

重栄作

延寶元年霜月中院

誚諧無言抄

冊七

作者

濃州
隱人梅翁序

東山名所記

冊一

同年三月

汲淺集

洪いさ

冊一

同年三月中旬

南都亮

法師作

大井川藤枝

冊四

同三年下院

維舟作

如意宝珠

冊八

同年五月廿八日

いさで此小は安靜作
似船清書

同二年六月

批判四笑 冊一

延宝三年六月上旬

海士釣舟 冊三

同年十月三日

遠山鳥 冊二

同年十月十日

小川千句 冊一

同年十月

貞德前車集 冊七

同三年外五月

誄諧明鏡 冊一

同年六月中旬

誄諧繪合 冊二

同年七月

新續獨吟 冊二

同年仲秋

沙金袋後集 冊五

同七月乃秋

信德十百韻 冊一

同年霜月上旬

谷遊軒作

池田

宗旦作

小川通在田氏

真竹作

立圃作

菅野谷

高政作

重德編

西武撰

宮城野

冊三

釣竿子序

延宝三年十月上旬

花千句

冊二

季吟湖春 正立 三吟

同年十二月

地主かゝり木比 花の都々

五百韻

冊一

宗因作

同四年辰五月

誂諧書林

歳旦集

冊二

近代大三物板行 庄兵衛板

寛永十六年以來之三物也

正法寺

埋草

冊五

成安作

老鳥千句

冊一

備後誂諧判者 立圃作

懷子

冊九

をちめれと
もあけげさ

重頼作

獨吟集

冊二

追加西武

重徳編

續獨吟集

冊二

同

若狐

冊二

徳元立圃玄札

友直作

貞徳和句解

冊五

未得撰

大和頌礼

冊三

狼谷自堅清書

正辰作

貞徳誂諧記

冊二

諸国作者評判

服部真板行
田中文内

歌仙癸句

冊二

作者季吟
判者正章

師走月夜

冊三

季吟作

崑山集

冊三

令徳撰 昌易序 令徳板

七十二物諍

そくそくそ

伊勢長帳

志のふくさ

神法樂集

蠅打 茶抄竹屋書

六方誹諧

雀子集

万句

こきりこきり千句

冊一冊十冊六冊一冊五冊二札一冊四冊五冊一

肥後十四郡名所物之癸句上云

季吟作

紫淵

正友作

遠島

清長作

大井氏貞怒

正友作

江戸

重次作

江戸定真点

可徳作

銀行作

立圃作

同作

あぶ花千句

帰花千句

片輪車

碁打花見

うはきさいふ

はら折

江戸紫

美濃郡上 点取千句

休息歌仙

烏帽子箱

冊四冊一冊一冊一冊一冊二冊一冊二札一札一

花くると都くともや
あしの題

咲きや葉さの糸の
糸志作

同作

同作

同作

同作

同作

同作

同作

同作

同作

立以作

親信巻頭

喜田村

阿_レ方千句

一本草

古鏡

水車

境海草

嘲哢集

尾陽句帳

繪空言

天神奉納集

朋友集

冊三 冊二 冊一 冊二 冊二 冊四 冊六 冊二 冊五 冊一

也足叟漢和兩吟

花軍

十種千句

類船

旅衣

闇夜船千句

秋教百韻

唐辛子百韻

四名集

誄諧作者名寄

冊六 冊一 札一 冊一 冊四 冊七 冊二 冊一

定清批判

梅盛序

尾列

重次作

未得作

本替撰

隨流作

顯成作

及加作

不存作

加友作

元正作

蝶乃子作

梅盛門人獨吟

尾陽

友次作

種寬作

玄札
白鷗

重德作

友意作

玄隆作

宗因作

同作

皆虛作

種寬作

土佐

尾島

法橋

誹諧大概

貞徳百韻自註 冊一

信親千句

花鳥千句

櫻木集

篠山千句

入聲集

長水

鬢鏡

正直集

種寛作
卷頭歌仙癸句也

渡部勘九衛門江戸住人

佐々木源兵衛
定行作

喜浦進加判
江戶住高井
親立志作

松平曲肱井上好貞松崎如折全
延宝三年正月申旬
喜田村
立以作

同作

小島氏
宗賢作

山田住
如元作

あしき集

鼻笛

詞友達

八百韻

壬生忠岑

共六禽句合

花車

たぬき集

誹諧師名寄

春清千句

冊一

共六禽句合
共六鳥集左右分發句勝負也

立圃作

西村氏

長愛子作

一子子作

飛田
加近作

冊一 冊一 冊二 冊一 冊一

阿波出集

冊一 冊四

長刀

巳イ巳ロ巳シ巳キ

發句帳也

蝶々子作

立聴

新大築波

獨言

越路草

冊四

卜琴作

水玉集

誄仙

こゝろハ増補

梅盛作

道中誄諧

正信千句

栄花千句

ほいまハ子

慶安五年己卯年

万句初

西武作

あも、千句

寛文五年二月廿四日

何と子

一代の引舟

同作

武藏野

冊二

維舟作

獨歩集

良保作

角柱

鉋屑追加不開板

備前岡山仁意

胤及作

井會集

季子吟

續連珠

三物記

言羽織

延宝四年二月出来

增補御傘雨傘

同年三月

連誂合掌

冊二 延宝四年三月

百千鳥

誂諧續仕様

隱箕隱笠

播磨杉原

小手卷

冊四 四季句帳
延宝六年未秋月卷頭守武句

季吟

同作

一雪作

同作

瑞信作

隨流作

玄怒作

似船作

可申作

忠直作

岩倉

常盤草

破箒

枉木乃りほり

老人の智慧

十歌仙

かり舞臺

七百五十句

同次韻二百五十句

同縵疵

新清水

追加自悦

幽山 似春 桃青

延宝六年霜月

言水 春澄

卷頭露次かり舞臺

江戸八哥仙

千春作

同八年

信德 如泉

春澄作

春澄よとて稲負せ

桃青其角楊水作

一昌作

芳賀氏

大坂点者

千春作

追加京点者

寬五集 冊五

追加延五集

新玉海集 冊七

塵塚 冊五

未曾有格 貞享九年八月

日本行脚文集

洛陽集 冊二

眠寤集 冊二

空林風葉 冊二



元頌作

春澄作

貞恕作

成之作

團水作

三千風作

自悅作

正由作

自悅作

大井氏

池島氏

仙臺

